



情報技術の楽しさを伝える

■ 岩尾 エマはるか



情報科学やコンピューターの大きな魅力の1つは、“自分で何でも作って試せる”点にある。パソコンさえあれば、プログラムを書いてゲームを開発し友人と楽しんだり、世界中に自作のWebサービスを公開することもできる。プロフェッショナルが使う本物の開発ツールの多くが無料で手に入り、誰でも最先端の表現に挑戦できる環境が整っている。

私自身が小学生のころにコンピューターに興味を抱いたきっかけも、「プログラムというものを書くことで自分でゲームを作ったり、パソコンを自在に操れるらしい」と聞いたことだった。MS-DOS用の簡単なツール開発から始まり、WindowsアプリやWebサイト開発に関心が広がっていった。当時はこれがそのまま将来の職業になるとは想像していなかったが、好奇心のおもむくままに手を動かし、結果的に現在のキャリアへとつながった。

現代社会はコンピューターや情報技術なしには成り立たない。社会インフラから日常生活まで、スマートフォンやパソコンなしには想像しがたい。寝ている時間までスマートデバイスで睡眠管理をする人もいるほどだ。日々新技術が生まれ、私自身技術者としては大変なこともある反面、エンドユーザーとしては新たな刺激が尽きることがない。

技術者として学ぶべき知識は増え続けている一方で、情報技術の応用例が豊富になったおかげで、新たな

■ 岩尾 エマはるか
Google ソフトウェアエンジニア

大阪府出身。筑波大学大学院システム情報工学研究科修了。家電メーカーなど数社を経て、2015年、Googleに入社。2019年に渡米、現在はシアトルオフィス勤務。自身がクイアであることを公表している。



世代が興味を持つきっかけも増えたと言える。たとえば、気象予報やコンピューターゲーム、生成 AI が同種の計算機基盤を利用することは、専門外の多くの人にとって意外だろう。こうした多様なユースケースは、1つの分野への興味が大規模計算や GPU などの技術に踏み込む機会にもつながる。

2019年と2022年に私が計算機を使った円周率計算の世界記録を更新した際、幸運なことに世界各国で小学校から大学までの授業でこの出来事が取り上げられ、数学や情報教育の教材として活用された。またこの経験を通じ、クラウド基盤技術やエンジニアとしてのキャリアについてお話する機会も増え、円周率という切り口を通じて何千万人もの人々に情報技術の楽しさを共有できた。

円周率計算の世界記録を多くの人が競っているということは小学生のころから知っていた。当時ダウンロードした Super PI という円周率計算プログラムに、東京大学金田研究室の世界記録に関するファイルが含まれており、漠然とした憧れを抱いた。当時は自分のパソコンと大学のスーパーコンピューターの差も、学ぶべきことも理解していなかったが、それでも高性能計算やハードウェアに興味を持つきっかけとなったのが円周率計算だった。

私の子どもころのきっかけが20年後に世界記録につながったように、皆様の研究も、今まさに興味を抱き始めた小学生や若い世代に届けば、将来の研究者や技術者を育むきっかけとなるかもしれない。